

特別優秀賞

## クラスメイト

ドイツ Jakob-Fugger Gymnasium 六年

中原レオン獅童

2022年2月24日、ロシアがウクライナに対して軍事侵攻を開始しました。その攻撃は一方的で、子どもを含む一般市民を巻き込んだ残忍な方法でした。それゆえ、国際社会から非難を浴びることとなり、侵攻のせいでたくさんの難民がヨーロッパ西側へ押し寄せることになってしまったのです。

侵攻が始まり二週間が過ぎた頃、僕のクラスにウクライナから来た難民の男子二人を迎え入れることになりました。彼らは持てる物だけを車に乗せて、僕が暮らすドイツにいる家族や親戚、知人などを頼り、比較的早く避難することができた人たちです。避難しようにも頼る人がいない人たちに比べれば、恵まれていると思われるかも知れませんが、明日も続くと思っていたなにげない幸せな日常生活を一瞬で奪われてしまったことに変わりはありません。

僕はクラス委員長として、じっとしてはいられませんでした。「あいさつ」と「僕はクラス委員長だから、困ったことがあったらなんでも聞いてね」という意味のウクライナ語を調べて、いつでも話せるように準備しました。ところがウクライナから来た子たちは、誰とも話そうとしませんでした。そこで僕は遠くから、朝と帰りにウクライナ語で毎日必ずあいさつをすることにしました。

ある日、授業で先生がウクライナ問題を取り上げました。クラスメイトの大半は、ロシアが悪いと意見しました。ロシアによる一方的な侵攻なのでしかたがありません。しかし、クラスにはロシア人の友達もいます。だから僕は、意見が言えませんでした。

授業のあとから、やはりロシア人の友達の元気もなくなりました。僕は、どうするべきか悩みましたが、「そうだ！ ロシア語は、完全ではないけれどウクライナ人の子も理解できる」と気がつきました。そして、ロシア人の友達に「君が僕たちの思いを彼らに通訳してくれないかな。」と提案したところ、引き受けてもらうことができました。

二人でウクライナ人の友達のところに行き、まず僕が調べたウクライナ語で思いを伝えましたが、残念なことに通じませんでした。続いてドイツ語でロシア人の友達に僕が言いたかったことを伝え、通訳してもらおうと、ウクライナ人の友達は理解したのか首を縦にふってくれました。それからは、ほかのクラスメイトもどんどん加わっていき、休み時間にみんなでドイツ語の勉強をしたり、大好きなサッカーをいっしょに楽しむようになりました。

残念ながらロシアによる侵攻は終わらず、日に日に難民が増え続けました。その結果、僕たちのクラスにいたウクライナ人の友達は、難民のためにできた学校に移ることになりました。寂しい気持ちもありますが、しかたありません。

彼らはドイツで、新しい生活を始めなければならない状況に放り込まれるしかなかったのです。そう思うと胸が痛くなりますが、負けないでがんばってほしいと思います。彼らに僕たちの思いは届いたと思いたいです。